



大石田大橋「最上川大橋」

大石田町の最上川に架かる橋で、右岸の大石田地区と左岸の横山地区を結んでいる。江戸時代の渡河施設は貧弱で、大石田・横山間は最上川を船で渡っていた。ここに初めて木橋が架かったのは1901年（明治34年）で「大橋」と称した。現在使用されている鉄橋は2代目の大橋で1930年（昭和5年）12月7日に完成・開通した。

鉄骨が橋脚の上に組まれているゲルバートラス橋（カンチレバートラス橋）で、全長：145.8m、幅：5.4mの鉄橋は、自動車の対面通行を可能とすると共に、構造を鋼板桁橋の鋼構橋（ゲルバー式）として重量にも耐えるものとした。木橋から鉄橋に変わった他、洪水時などの水位上昇を見据え、桁の位置を以前より上げて架け替えが行われた。

道路施設長寿命化対策事業で、2016年から2018年に掛けて橋梁補修工事が施されていたが、2020年7月の豪雨による最上川氾濫に伴い、治水対策として最上川左岸（横山地区側）の河川拡幅工事が行われる事になり、大石田大橋は架け替えられる事になった。